

切り替えの上に
別布たたきつけ

2枚仕立て衿

前明きボタン2つ留め



寸法、用尺について

(パターン上の寸法になります)

サイズ	着丈	背肩幅	バスト	袖丈 (半袖)
90	35.8cm	24.5cm	59.0cm	11.0cm
100	38.9cm	26.5cm	62.0cm	12.5cm
110	42.0cm	28.5cm	66.0cm	14.0cm
120	44.9cm	30.5cm	70.0cm	15.5cm
130	48.3cm	32.0cm	74.0cm	17.0cm

コンパクトで柔らかいラインのポロシャツで、
カジュアルすぎないやさしい雰囲気です。

ニット専用パターンです。

ニット素材は一般的なスムーズや天竺などが向いています。

カジュアルなポロシャツにある鹿の子など固めの素材は
脱ぎ着がすこしにくくなるかもしれません。

パターンは、はぎ合わせてからお使いください。

切り替え布は、布帛素材の使用可です。

また、テープなどもお使いいただけます。

用尺は目安です。柄あわせ等により、
必要な用尺は変わる場合がございます。
また生地用の尺は「有効生地巾」で
計算しています。有効生地巾とは、
ミミなど除いた生地として使える部分の
生地幅のことです。

芯地、伸び止めテープとも、
やわらかく、張りのない薄いタイプが
適しています。(表にできるだけ響かせないため)

胸のラインを別布でお作りいただく場合は、
別布が、0.05m 必要になりますのでご注意ください。

用尺と付属について

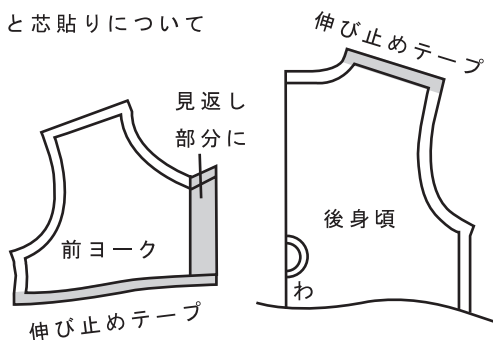
用尺	生地(ニット)		芯地	10mm巾 伸び止め テープ	ボタン 10mm	好みで 15mm巾 テープ
	140cm巾 以上	110~140				
90	0.5m	0.7m	0.2m	0.6m	2個	0.4m
100	0.5m	0.8m	0.2m	0.6m	2個	0.4m
110	0.6m	0.8m	0.2m	0.7m	2個	0.4m
120	1.0m	1.0m	0.2m	0.7m	2個	0.4m
130	1.0m	1.0m	0.2m	0.7m	2個	0.4m

裁断枚数は

- 前身頃 1枚
- 後身頃 1枚
- 前ヨーク 2枚
- 袖 2枚
- 表衿 1枚
- 地衿 1枚
- 胸ラインテープ (または別布)
- 合計 7パーツ 9枚

テンションの高い生地の場合、
表衿にも芯を貼った方が
縫いやすくなりますが、
できるだけ貼らない方が
衿がやわらかく仕上がります。

■裁断と芯貼りについて



グレーの部分に
芯を貼ります。

表衿と地衿はタテ横の地の目は
どちらでもかまいません。
生地の柄に合わせてください。
ただし、どちらか一方に
統一してください。

二次配布・無断転載禁止

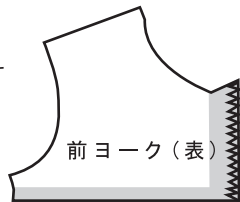
■表衿と地衿

大ききの違う衿が2つあります。表衿から地衿が見えないようパターンで操作しているためです。大きい方が表衿です。



縫製手順 1 ヨークと身頃

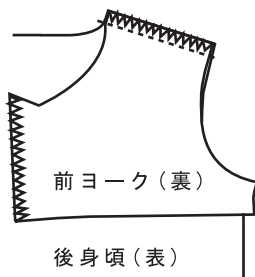
①前ヨークの見返し部分をロック（ジグザグ）始末します



②肩を縫い合わせます

地縫い+ロック（ジグザグ）もしくは4本糸オーバーロックで、後身頃と前ヨークの肩を中表で縫い合わせます。

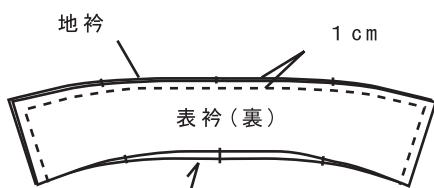
縫い代は後身頃側に倒します。



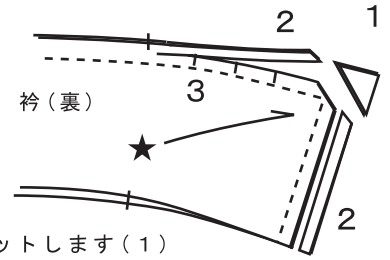
2 衿を作ります

表衿と地衿を中表にして、縫い代の端をきちんと揃うように合わせ、衿外回りをぐるりと縫い合わせていきます。

中表に合わせる時、地衿を伸ばさないように、表衿（大きい方）を地衿（小さい方）に合わせるようにして、タックにならない程度に生地を寄せます。



衿つけ側（身頃につく方）は縫いません。



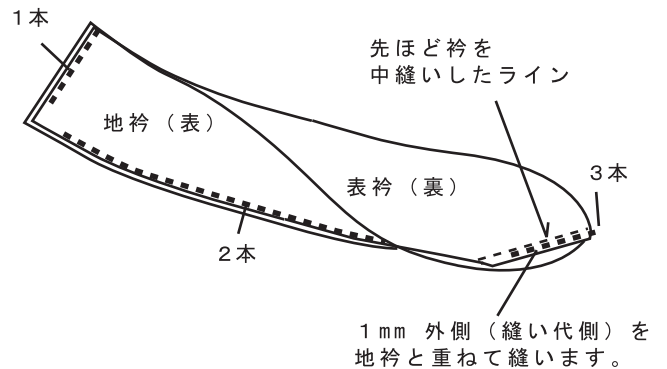
次に角のところをカットします（1）
★印のところは、ギリギリでカットせず、縫い目から3mm程度外側をカットします。（ギリギリだと、ほころびやすくなります）

縫い代を0.5cm巾になるように今縫ったところの縫い代をカットします（2）

カーブのところは、2cm位の間隔で切り込みを入れておきます（3）

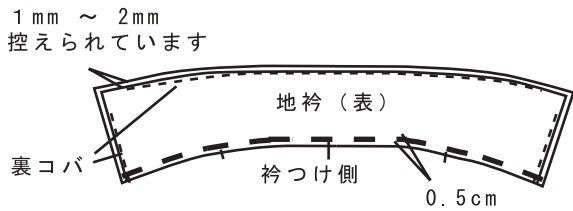
■裏コバ（ステッチ）

次の工程は『表にステッチを入れたくないけれど、衿がパカパカしないように落ち着かせたい』というような時に『裏コバ（ステッチ）』というテクニックを使う方法です。あまりカジュアルに仕上げたくない時に使います。縫い方の勉強にもなりますので、チャレンジをオススメします。表から縫い代が見えても良い（見せたい）場合は、衿をアイロンで整え、衿まわりに普通にステッチを入れます。



裏側から衿を広げて、縫い代を地衿側に倒しながら、衿を中縫いした縫い目の外側を、縫い代2枚と地衿、計3枚重ねて縫い代をとめつけるように縫います。衿先はミシンが入らないので、入るところまで縫い止め返し縫いをします。計3本裏コバします。

衿を表に戻し、アイロンで整えます。
表衿の方が少し大きいため、地衿側から見ると、
1～2mm、表衿が見える状態になります。
これが正しい状態なので、このまま
アイロンで押さえてください。



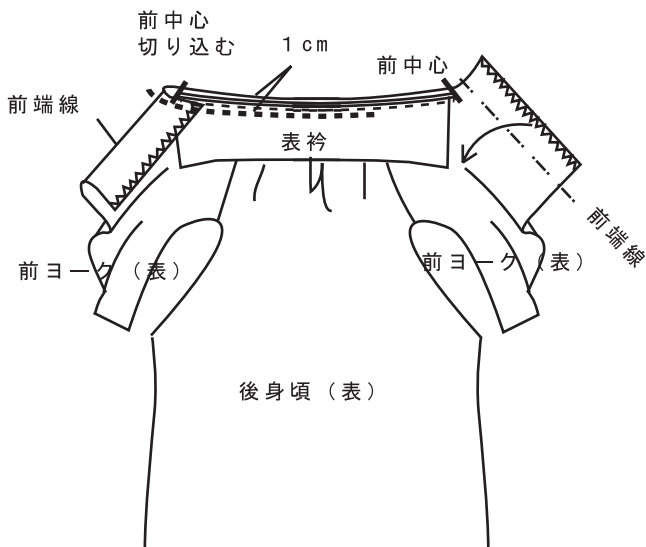
衿が整えられたら、今度は衿つけ側の合印を
きちんとあわせ、端から 0.5cm のところを、
仮止めミシンでとめておきます。
この時、生地を伸ばさないように注意してください。

3 衿と身頃を縫い合わせます

身頃の表側を上にして、表衿を上にした衿を、
衿ぐりをあわせて重ねます。
衿端は前中心に来るようにし

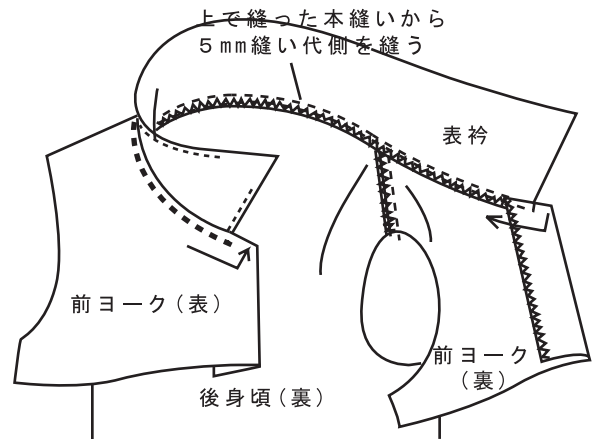
見返し部分で挟み込むようにして 縫い代 1cm で
衿つけ線を縫います。前中心の縫い代部分に
ミシン目ギリギリまで切り込みを入れます。

切り込むのは身頃と見返しだけです。
衿を切ってしまうないように
充分注意してください。



次に、衿ぐり縫い代を 3mm 位カットしながら、
縫い代をロック始末します。

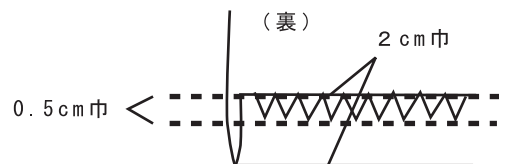
(結果、縫い代巾が 7mm 位になります)
ジグザグ処理の場合は、先にハサミでカットしてから
ジグザグミシンをかけてください。



見返しを表に戻して衿つけ部分をアイロンで整え
衿つけの縫い代を身頃に縫いとめます。
衿つけミシンの外側 (縫い代側) 5mm のところを
上図のように前中心から始まり、反対側の前中心まで、
身頃まで通してミシンをかけます。

4 袖口始末をします

縫い代端をロック (ジグザグ) してから、
下の図のように縫い上げます。



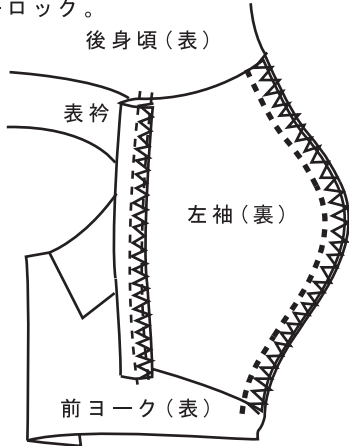
裾や袖口始末の時、表側からステッチを入れると
縫い伸びが少なくきれいに仕上がります。

5 袖付け

身頃と袖を中表に合わせ、合い印を合わせながら縫い合わせていきます。本縫い+ロック（ジグザグ）もしくは4本糸オーバーロック。

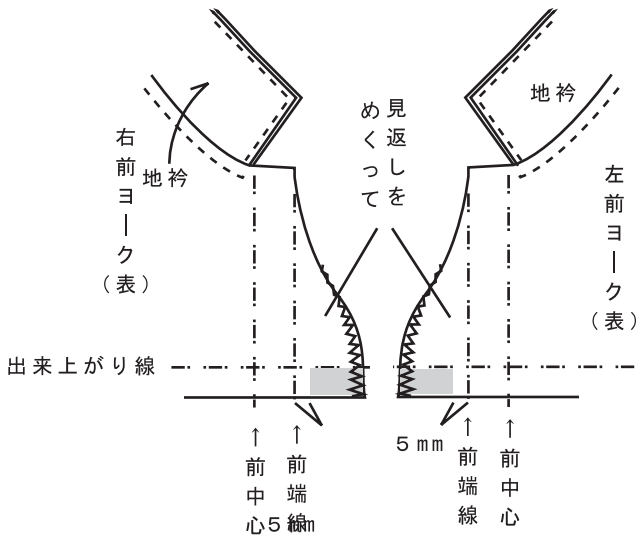
縫い代は袖側に倒します。

仕上がりの見た目は、身頃側を上にしてロックする方が綺麗ですが袖側が上の方がミシンはかけやすいです。

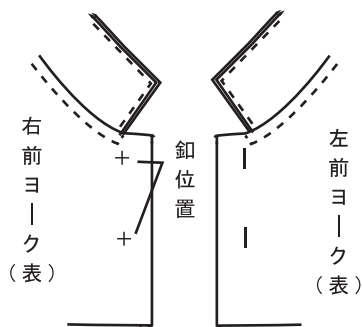


6 ヨークと前身頃を縫い合わせます

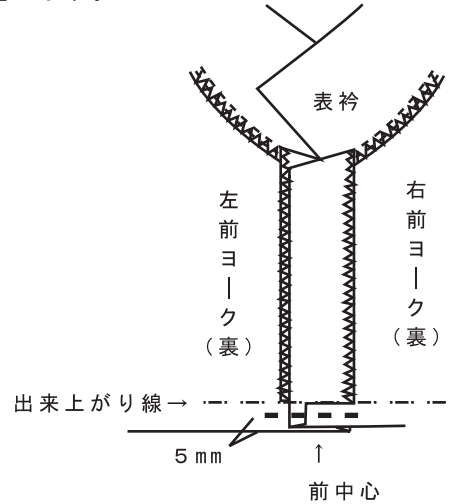
まず前ヨークの、前合わせ部分（前中心で重なる部分）の縫い代をカットします。（■部分）これは身頃と縫い合わせた時に、生地が厚くなるのを防ぐためです。



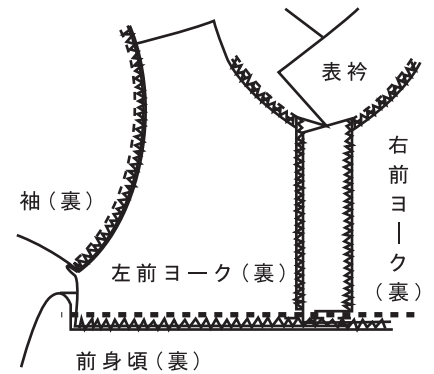
左前ヨークにボタンホールを開けます。



前ヨークを出来上がりが左上前（左身頃が上）になるように前中心で合わせます。ずれないように、縫い代の端から5mmのところ仮止めミシンをします。

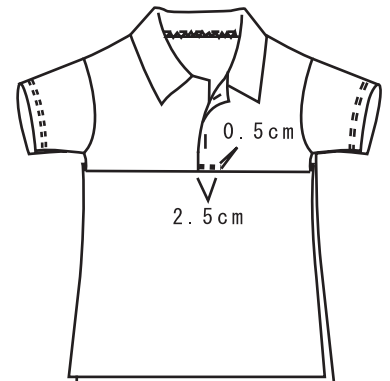


前ヨークと前身頃を中表で合わせ、出来上がり線を本縫いし、端をロックで始末。（もしくは4本糸オーバーロック）縫い代はヨーク側に倒します。



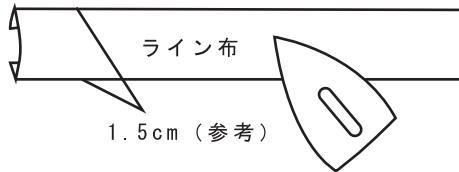
今縫ったヨーク切り替えの縫い代を

上（ヨーク側）に倒した状態で、前明き部分に、表からステッチを入れます。これは、裏の縫い代をとめる役割をします。切り替え線から上0.5cmのところ、巾2.5cmで入れます。



7 胸ライン

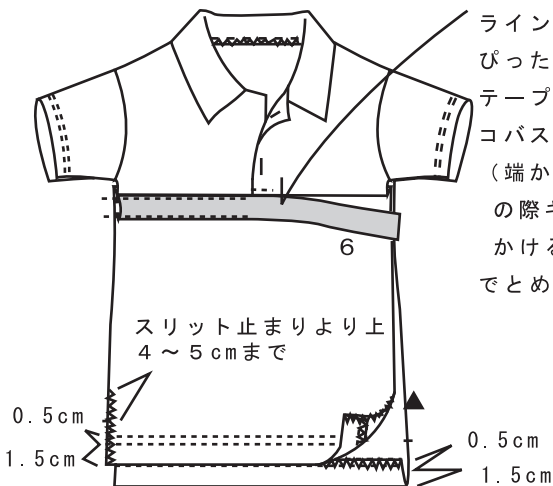
出来上がりに折ってアイロンしておきます。



ライン布をつけない場合、もしくは市販のテープなどで代用する場合はこの工程（アイロンをかける）は不要です。また、飾りなので、巾も任意です。

8 裾と脇の始末をします

テープの上端をヨーク切り替えラインにぴったりとつけてテープの両端を、コバステッチ（端から1mm程度の際ギリギリにかけるステッチ）でとめつけます。

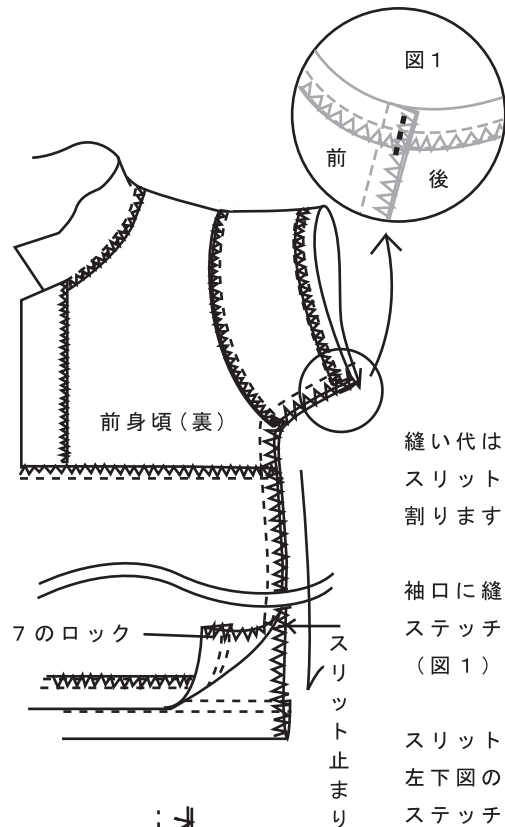


裾始末します。前身頃、後身頃、それぞれロック（ジグザグ）し、縫い上げます。前身頃と後身頃では、着丈が違います。

その後前身頃のみ、スリット止まりより上4~5cmのところまで、ロック（ジグザグ）ミシンをかけておきます。（▲印の所）

9 袖下~脇縫いをします

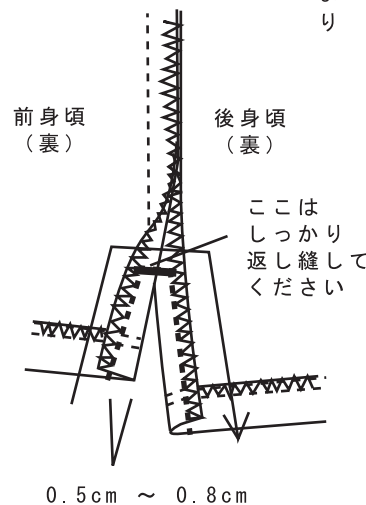
まずスリットの止まりまでを中表で本縫いします。その後ロック（ジグザグ）しますが、先ほどロックした部分（前身頃裾部分）はロックしないようによけて、袖口から裾まで一気に始末します。



縫い代は後ろに倒します。スリット部分の縫い代は割ります。

袖口に縫い代を止めるステッチを入れます（図1）

スリット部分に、左下図のようにステッチを入れます。



最後にボタンをつけ、出来上がりにアイロンで折った飾り布をスリット止まりにステッチでとめれば完成です。

